

読んで

さいたま

さいたま市私立幼稚園協会新聞 創刊号 令和3年(2021) 秋号



子どもと一緒に親も学んでいき、親として
育つ、人間として育っていくのです。

令和3年7月13日(火)さいたま市役所市長室において、清水勇人さいたま市長と松尾創
さいたま市私立幼稚園協会会長の2人で、さいたま市における今後の幼稚園教育について
語って頂きました。

【さいたま市における幼児教育の 重要性について】

司会：幼児教育の重要性について
どのようにお考えになられている
のかをお聞かせください。

清水市長：これはもう、言うま
でもありませんが、幼児教育と
いうのは生涯に渡る人間形成の
基礎を作る中で、大事な時期だ
と考えております。特に幼児期
は色々なものを吸収する能力が
もつとも高い時期でもあるので、
様々な事を身に付けていくのに必
要な環境をどれだけ私たちが用
意できるかという事が一つのポイ
ントであると思います。特に最近
の教育の分野では、非認知能力
の重要性が言われています。単に
勉強や知識などの認知能力だけ
でなく、体験などを通じて五感
を磨き、創造力ややり抜く力な
ど非認知能力を身につける環境
を提供することが、非常に重要
であると感じています。

そうした中で、さいたま市は令
和2年に、さいたま市の幼児教育
が目指す子ども像である「あそ
びで育つ 輝くさいたまの子」、
さいたま市幼児教育の指針という
ものを作成しました。これには「あ
りのままの自分で安心して生活す
る」「健やかな身体で安全・快適
に生活する」「主体的・自発的に
活動する」「自分なりの表現で人
やものと関わる」といった4つの
視点を示させていただいていま
す。この指針は、社会が大きく変
化するなど厳しい環境にある中
で、より重要性を増しています。
幼稚園協会の皆さんやさいたま市

内の各幼稚園、認定こども園等の
皆さんと協力をして、こうした
教育環境を作っていくことがさい
たま市の方針です。

松尾会長：同感です。幼児期に
様々な環境でどれだけ経験をし
たかというのは、その後の一生
を決めるといっても過言では無い
と思います。

現在、埼玉県には550ぐらい
の幼稚園があります。そのうち、
さいたま市内に103園。5分の
1がさいたま市に集中していま
す。一つ一つの幼稚園がどれも熱
心で、「伝統があり、一生懸命にやっ
ています。」「さいたま市の幼稚園
に行きたい」と願う、「さいたま市
で良いな」と思う、教育意識の高
い、しかも若い家族が集まってく
るといった特有性がさいたま市に
あると思います。そのようなさい
たま市で幼稚園をやっていくとい
う意味では、私たちも非常に熱い
気持ちがあります。

司会：ありがとうございます。幼
稚園における保護者が子どもに
どう関わるのか、その重要性につ
いてはいかがでしょうか。

清水市長：さいたま市の場合、
さいたま市で教育を受けさせた
という思いで、本市に転入をし
てきてくださる方がたくさん
いらっしゃいます。特に、0歳か
ら14歳の転入超過では、6年連
続で全国1位になります。これ
は、そういう子育てにおける環
境がさいたま市にはあると思っ
て選んでいただいているのだと
思っています。特にさいたま市を
選ばれる保護者は教育に対する

意識を非常に高く持たれる方が
多いと感じています。

松尾会長：まず大前提として、
親の就労はともかく、やはり子
どもにとつての親御さん、お母
さんでもお父さんでもおじい
ちゃんおばあちゃんでも、その
存在はとても大事だと思います。
幼児教育や環境の大切さについ
ては先ほどお話しした通りです
が、さいたま市の保育所、幼稚園、
小学校に行っている子どもたちが
本当に豊かな人間性を獲得する
原点はやはり家庭教育にあると
考えます。

さいたま市の幼稚園・こども
園を見る限り、そういった幼児
期の環境については恵まれてい
ると思つていて、これは教育水
準の高いさいたま市ならではの
と感じます。

【保護者に対する就労支援の現状 の流れについて】

司会：ありがとうございます。お
話の中で保護者の就労や家族の在
り方、幼児期における家庭環境
の重要性についての話が出てきま
したが、現状の国の施策としては、
子育て世帯の保護者層に対しての
就労を支援する流れが強いのかな
と感じます。このような情勢をど
のようにお考えになりますか。

清水市長：以前の日本、あるい
は世界とは少し違う状況になり
つつあります。一つは日本では少
子高齢化社会がより進んできて
いて、これまでの男性が働いて
女性が家庭にいて子どもを育て
るというモデルはなかなか成り



立ちにくくなってきたというのがあります。

また、もう一つは、男女共同参画社会という視点からも、男性が外で働き、女性が家庭で家事や子育てをするという固定的な役割分担意識にとらわれず、男女が対等な構成員として互いに協力し、社会の支援も受け、家族としての役割を果たしながら、家庭生活と他の活動を両立しているという、男女共同参画社会を実現しているところという時代背景があります。また、各ご家庭の経済的な環境やお父さん、お母さんのライフスタイル、ワークスタイル、価値観の変化、さらには、子育てに対する考え方などについても変化し、多様化してきています。そうした社会環境の変化の中で、私たちは、子どもたちの育ちを支え、親と子の絆を深めていくことを第一に、子育て環境については多様な選択肢から選択できる社会にしていく必要があると考えています。

関係を築いていく上でも非常に大事な時期を送っていくことの大切さを十分に認識しながら、どういった社会を築いていくかということがすごくポイントでもあると思います。

例えば、さいたま市は幼稚園協会の協力により子育て支援型幼稚園の認定制度を作りました。幼稚園は、各園の教育理念に基づいて特徴ある教育がなされています。共働き家庭イコール保育所という選択だけではなく、少し働き方の工夫で、子どもが幼稚園に通うことができる環境を提供したいと考え、幼稚園のご協力によって、夏休みや冬休みなどの長期の休み期間や平日の預かり保育を充実させていただくことで可能になりました。ご家庭の事情や考え方によって、保育所、幼稚園、子育て支援型幼稚園など様々な子育て環境を「選べる環境」を作っていきます。

それから、もう一つは働き方の部分、子育ての幼児期に、出来るだけ親と子が接点を持てるような環境を作っていくために、子育て環境だけでなくワークスタイル、働き方改革の部分を社会全体で理解して許容することが大事です。育児休業の期間を延ばしていくことや、育児休業の在り方を多様化すれば、もしかしたら通常の幼稚園でもは入れるという形になるかもしれません。現在はちよつどその過渡期にありますので、どうしても保育所に焦点が当たりがちではありますが、これからは、ご家庭の考え方や状況に対応できる子育て環境を作っていくたいと思います。

また、結果的にどうしても子どもの接点が失われてしまい、親子の絆が薄くなってしまわないように、さいたま市では子育て支援策として、パズールやパサンデーといったお父さんが子育てにもっと参加してもらうような取り組みをしたり、おじいちゃんやおばあちゃんたちも関わって頂くことと孫育て講座や祖

父母手帳みたいなものを作ったりと色々な取り組みをしています。子育てするということは、ある意味でものすごく大変で、負担な部分があるかもしれませんが、もう一方で、その苦勞をした分、楽しさとか子どもと過ごした時間はとても貴重なものであると思います。

松尾会長…市長のご家庭はお子さんお二人でしたか？

清水市長…そうですね。もう20歳超えましたが二人います。

松尾会長…市長になられた時は何歳ぐらいだったのですか？

清水市長…僕が市長になった時は小学生と中学生ですかね。県会議員の時に幼稚園に入ったばかりと、下はまだ生まれて間もないぐらいでした。

松尾会長…やはり一緒にザリガニとか捕りに行ったのですか？それとも忙しくて行けなかったのですか？

清水市長…時間的にはもちろん、必ずしも多い時間を過ごせたわけでは無いと思いますが、でも色々理由をつけてというか、私自身も、地域の子どもたちとお父さんお母さんを集めて、田植えをみんなと一緒にやったり、虫取りをしたり、子どもはとも虫が好きだったんですね。うちの近所はまだまだ自然がいっぱい残っているの、虫捕りに行ったり、ザリガニもいたりしました。

松尾会長…その子育ての時間って「あつという間」じゃないですか？

清水市長…そうですね。その時に感じた感覚というか、親としての感動であったり、楽しさであったりということ、成人まで育っていくとその時のような感動を味

みんなで子どもを育んでいく「共育」

わうことは少ないかもしれませんがね。やはり、小さい時に子どもと過ごした時間というのは、今でも私にとっても妻にとっても、すごく宝物みたいな時間であったのは間違いないですね。

松尾会長…私も二人の子がいますが、下の子はまだ少し遊んでくれるんですね。するとやっぱり仕事で疲れていてきつけれど、この日は公園にザリガニ捕りに行かなきゃなと思つたんですよ。

幼稚園を終えた親というのは、小学校や中学校に行っても結構仲が良いのですが、PTAの役員の方たちに聞くと、幼稚園の時が一番付き合ひの密度が濃かったですと言われることが多いです。その濃密な時間が全て善しとは思われないですが、便利すぎる世の中になつてしまつた昨今において、お金を預ければ預かってくれるような考え方はなく、大変かもしれないけれどもそれが楽しいと思うような時間を感じて欲しいんですよ。

清水市長…そうですね。子どもと一緒にいると大変な時もあるし、もちろん難しいことや困難に出会う事も多いです。でもその分その何倍も楽しさとか喜びみたいなものがたくさんあって、それが子育ての楽しささだろうと思えますよね。

松尾会長…結局、幼児期に思いを掛けた分だけ子どもは返してくれたり、社会や世の中の為に尽くしてくれたりするものです。そういうことを、我々は当然ながら、若い保護者の方にも知って欲しいなと思つたんですよ。

清水市長…そうですね。今の時代ですと、ご両親が働いていてなかなかそういう接点が短いかもしれませんが、短いならばそれなりの濃厚な時間の使い方、接点の持ち方があると思いますので、それを見出せるようにして頂ければ

いいと思います。そういうことを考えながら過ごしていくことで、親が親として育っていくのですよね。

松尾会長…そうですね。子育てをすることで、親も育つんですよ。

清水市長…親は子どもが生まれて、そして日々の生活の中で子どもとの関わりから、子どもを愛おしむ気持ちや、人との接し方、優しい気持ちに気付くといった父性や母性が育まれていくのだと思います。子どもと一緒に親も学んでいき、親として育つ、人間としても育つていくのだと思います。

そういうお互いが育っていく環境を、如何に作っていくかという事が大切で、まさに幼稚園というのは、そういった環境が整えられていて、幼稚園の先生方に色々なアドバイスを頂きながらお世話になっていると思います。

松尾会長…親として子どもと「共に育つ」という事から「共育」とも最近言いますね。

清水市長…その通りです。共に育つ共育機関ですね。

松尾会長…子どもが幼稚園に行くまでは子育てが我が仕事という思いでいらつしやる方もいると思います。いわゆる専業主婦のお母さんです。私は、その人たちに對してもつとフォーカスが当たる世の中になつて欲しいなと思つています。子育てに苦勞をしているのは専業主婦も働くお母さんも同じですから、みんな子どもを育んでいく「共育」という意識を幼稚園と市長とでも共有したいと思つたんですよ。だから会社で働いていないけれども、子育てに奮闘しているお母さんも是非応援してあげてください。

清水市長…もちろんです。親の権

利もある。しかし、子どもの権利もあるの、親と子の権利を両方にきつちり与えられるかという事だろうと思つています。

松尾会長…さいたま市ではご家庭の様々な補助金が設けられています。が、会社で働いていると有利になるような仕組みに表面的には見えてしまいます。そうすると、働くことよりも子どもや家を守ることを優先しているお母さんが一番つらく思っているという感じを、ここ数年肌で感じるようになってきました。先ほど触れたように、子育てに苦勞をしているのは専業主婦も働くお母さんも同じですから、市長にはどうか改めて一生懸命子育てに奮闘する専業主婦の皆さんにも目を向けてあげてください。

清水市長…子どもの人格形成に大切な幼児期に、できるだけ子どもと大切な時間を過ごすことを重視している親が幼稚園の保護者には多いのだろうと思つていますし、そうした価値観も素晴らしいことだと思つています。

また、それぞれのご家庭で経済的な環境や保護者のライフスタイル、ワークスタイルの中で保育園を選択するという事もあり、どちらが良いということでは





はないと思いますし、どちらの選択をしても子どもたちの育ちのサポートをしていくのが、私たちの行政の役割です。

そういう中で子どもを育て方や自身の生き方をどうするかを判断していただければと思います。様々な価値観や考え方の中で、また、我が子にとつてどういう環境が、より成長できるのか、各ご家庭や子どもさんにとつて様々な選択肢を提供し、選べる子育て環境を作っていきたいと思えます。

私たちは、働く事だけを推奨しているわけではありません。

松尾会長…国の施策が子育て世帯の保護者にも働く事を推奨するような流れできて、さいたま市もたくさん保育所を作っている、ある意味で市長を誤解している方もいるかもしれない。ただ、こういう機会があると、決してそうではない事が伝わってきます。是非、先進的なさいたま市は、世の中とはちょっと違う、もつと先を行くようになり、ダーシップを取って頂きたいと思っております。

思っています。

清水市長…さいたま市は「子育て楽しいさいたま市」という事を言っておりますが、働いていても、働いていなくても、子育てが本当に楽しくて子育てして良かったと思えるような市になりたいなと思っております。その為には、今は働く＝保育所という感じになっていますが、色々な選択肢がある中で、決してそういう考え方だけではないという事だと思えます。もちろん、何かを取った時には、何かが少し犠牲になったり、少し弱まったりすることはあると思えます。ただ、その中でどう家庭を作っていくのかということも、人生の中では一つの重要な要素だと思っております。

松尾会長…本当にこれは難しいけれども、社会にどの程度合わせることかという事と、幼稚園がどういうカラーを守り抜くのか、清水市長がどういうカラーでさいたま市を引っ張っていくのかというのは、絶妙なバランスですね。

市長がよくお話しされる自己肯定感のお話ですが、その芽とつては、小学校に送り出す幼稚園の先生や保育士の方が、子どもがつかい時に先生がいるから大丈夫、お母さんがいるから大丈夫といった思いを与えて、「ああ、僕は愛されているんだ」という気持ちを持つことが出来るんです。社会の合理性とか、経済性とかは目に見えてわかりやすいものですが、そこでは無く、目に見えないけれども大事なところ、そういうところがわかる幼稚園行政を引き続きお願いしたいと思えます。市長が作ったパズールなものはすごい大人気です。どの幼稚園でも浸透していますから。

清水市長…お父さんたちもだいぶ子育てに関わる時代になってきたと思えます。子育てはもちろん大変なところも無いわけではな

いけれども、苦労した分、喜びは大きいし、楽しいんですよ。子育ては、色々な試行錯誤をしながら、子どもと一緒に色々な壁にぶつかりながら、親子として築き上げていく、絆を強めていく大事な時期だと思っております。その中で親として、人間として成長して、また子どもが一人の人間として育っていく。その基礎を作り上げていく大変貴重な機会だと思えます。

私たちも各幼稚園がそれぞれ教育理念を掲げて、遊びや様々な体験を通じて幼児の育ちの場、教育の場を作り、保護者の皆さんと連携して家庭教育の充実にも取り組みながら活動している幼稚園の良さは十分に理解しているつもりです。今の時代、幼児だけを見るのではなく、お父さんやお母さんとのコミュニケーションも大切で、どう子どもと接しても出来るか、どう子どもと向き合っているか、自分自身が成長できるか、あるいは親として育っていくかという事に対して共育機関の幼稚園という役割はすごく大きいものだと思います。子育てと自分が親として育っていくというのは別問題では無く、一緒に育っていくかというバランスが崩れてしまつていくところがあります。子どもは親の事を全幅の信頼をもちつて頼ってくるわけです。その時に親が子どもに何を返してあげることかという事だと思えます。

それを試行錯誤しながら、壁にぶつかりながらやっていくことで親として、また親子の絆として成長していく。それを根底として成長していつてもらいたいなと思えます。

松尾会長…これからは是非さいたま市内の幼稚園の子どもとご家庭、そして幼稚園に引き続き熱い応援を宜しくお願いします。本日はありがとうございました。

清水市長…こちらこそ、ありがとうございました。

本市における幼児教育の充実・発展に向けて

さいたま市教育委員会 教育長 細田 真由美



新たな価値を生み出す力につながることにあります。自己肯定感を育む上で、子どもの内面に働きかけ、一人一人の持つ長所や可能性を見いだし、その芽を伸ばすことをねらいとして行われる幼児教育は、重要な役割を果たすものといえます。

この夏に行われた東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では、困難を乗り越え、自らの力を存分に発揮して活躍する選手達の姿、国境を越えて競い合い、讃え合う人々の姿に強い感動を覚えました。予測困難な時代を迎え、学校教育においても、一人一人の児童生徒が、自分の長所や可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓くことが出来るよう、その資質・能力を育成することが重要とされております。

学校で教育課程を編成する際の基準となる学習指導要領では、子ども達に知識・技能、思考力・判断力・表現力等の認知能力と、自己肯定感やものごとをやり抜く力等の非認知能力を合わせた「真の学力」を育むことが求められております。具体的には、社会に開かれた教育課程の実現、「主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）」の実践、教科横断的な学習の充実などが重要とされ、2022年度からは、高校の教育課程に「総合的な探究の時間」が導入されます。

本市では、目指す人間像「世界と向き合い 未来の創り手として 輝き続ける人」の実現に向け、幼稚園・認定こども園等と小学校での教育が円滑に接続されるよう、子どもの発達や学びの連続性を踏まえた教育活動の充実を図るとともに、全ての市立小・中学校、高

さいたま市私立幼稚園協会関係者及び保護者の皆様には、日頃より幼児教育の充実と発展のため御尽力をいただくとともに、本市教育施策の推進に、御理解、御協力をいただき、深く感謝申し上げます。さらには、新型コロナウイルス感染症対策への多大なるお力添えをいただいておりますことに、重ねて感謝申し上げます。

さて、さいたま市私立幼稚園協会に加盟される100を超える私立幼稚園・認定こども園におかれましては、学校教育法及び幼稚園教育要領に基づき、各園の教育方針の下、特色ある教育活動を実施し、未来を担う子どもたちに豊かな心や健やかな体を育む幼児教育において、大きな役割を担っていただいております。

等学校、中等教育学校、特別支援学校の特色を生かし、学校種間の系統的な連携・接続を生かした教育活動を展開しているところでございます。さらに、「さいたまSTEAMS教育※」を推進し、学校での学習を社会での問題発見・解決に生かしていくための教科横断的な学習を充実させるとともに、SDGsの実現を目指した教育を推進し、他者を尊重し、多様な人々と協働しながら「持続可能な社会の創り手」となる児童生徒の育成に取り組んでおります。

※さいたま市STEAMS教育とは
「さいたまSTEAMS教育」とは、STEAM教育[Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Art(デザイン・感性等)、Mathematics(数学)]に本市独自のSports(スポーツ)を加え、各教科での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科横断的な学習のことです。

各園の計画的に構成された環境において、幼児期にふさわしい遊びや生活を通して育まれる「共同性」や「思考力の芽生え」、「豊かな感性と表現」などの資質・能力は、幼児期から始まり小・中・高校へとつながる、子ども達の学びの重要な基盤となるものでございます。本市における幼児教育が益々充実・発展されるとともに、さいたま市私立幼稚園協会及び保護者の皆様からの御協力により、幼稚園・認定こども園と小学校の一層の連携強化を図っていくことが、子どもたちに「真の学力」を育み、今日的な教育課題の解決につながっていくものと信じておりますので、どうぞよろしくお申し込み申し上げます。

子ども家庭総合センター「あいぱれっと」

子ども家庭総合センター「あいぱれっと」は、JR京浜東北線と野駅東口から徒歩約7分の場所にあります。

「あいぱれっと」は、乳幼児から青少年を含む幅広い年代の子どもとその家庭、そして、地域の子育て機能を総合的に支援する施設として、子育て支援を担う多様な担い手が、本施設において各々の知識や知恵を提供しあい、協働を密にすることで、さいたま市の未来を担う子どもや青少年が心身ともに健やかに育つ、「子育てしやすいまち 若い力の育つまち」の実現を目指す拠点として開設されました。「あいぱれっと」には、1階に「市民コンタクトスクエア」が、2・3・4階は専門相談機関が設置されています。「市民コンタクトスクエア」は、子どもや保護者等が気軽に相談に訪れることができる場所と位置づけられており、「子どもコンシェルジュ」が配置され、気軽な語らいの中から子どもや家庭の状況・ニーズを把握しながら、必要に応じて適切な相談のサービスにつなげられています。また、子どもの遊び・活動に関する取り組みが、それぞれのスペースで展開されています。

「あいぱれっと」は、市全域の子育て支援・相談対応力の向上のため、すべての子育て家庭が安心して子育てができるように、子育てに関する情報や意見の交換を行うことができる施設です。ぜひ一度、遊びに行ってみてはいかがでしょうか。

●乳幼児親子向けスペース

乳幼児親子を対象に、地域や親子同士の「支え合い」の場として、ぱれっとひろばを設置し、ぱれっとひろばを活用して、親子同士の交流を主軸においた子育て講座・イベントなどを開催しています。

●小学生の遊びスペース

小学生が体を動かし遊べる場として、全天候型の屋根付運動場があります。

●中高生の活動スペース

「自ら自分たちの居場所をつくる」ことをコンセプトとして、自習等に利用できる中高生活動スペースや、ダンススタジオ、バンドスタジオがあります。

●冒険はらっぱ

冒険はらっぱは、子どもたちが思い思いに遊ぶことができるように、プログラムや禁止事項をなるべくつくらず、子どもの「やってみよう」という気持ちを重視しながら、大人のプレイリーダーが遊びを見守り、サポートしています。また、子どもたちが自ら遊びを考え、遊具を作り出し、仲間と創造性を高められています。

DATA

【アクセス】JR京浜東北線と野駅東口から徒歩約7分 【住所】〒330-0071 埼玉県さいたま市浦和区上木崎 4-4-10 【TEL】048-829-7043 【営業時間】9:00~20:00 【定休日】毎週水曜日（祝日の場合その翌日）年末年始（12月29日~1月3日まで）



ごあいさつ

さいたま市私立幼稚園協会 PTA 連合会会長 銀鈴幼稚園 長友克東様



普段の仕事（八百屋です）でも、小さなお子さんを連れた親御さんと話す機会がよくあります。

今の環境だと、どうしてもコロナに対しての不安を口にする方が多いです。家庭の都合で子どもを通わせ続けているのだろうか、家でじっとさせておくのが正しいことなのだろうか、等々。

正直、それでも皆働かなくてはならないし、子どもを育てていかなくてはならないのです。この不安というのは、現場の先生方にもあると思いますし、感じていると思います。

子どもたちに普段よりも注視を続け、この一年以上も感染症関連の業務は増えているままでしょう。だからこそ、今回の市長への要望に関しては、一つでも多く実現して欲しいと願います。コロナだけではない不安や不満の解消が、結果として子どもたちの成長にも関わってくると思うからです。

今年からさいたま市私立幼稚園協会 PTA 連合会会長の任に就いた者として、さいたま市の幼稚園に通う子どもたちのために微力ながらお手伝いさせていただきます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



JAKUETS

株式会社ジャクエツ さいたま店
〒330-0856 埼玉県さいたま市大宮区三橋 3-228-3
TEL 048-650-4500 FAX 048-650-4501

世界文化社の月刊絵本・保育用品

株式会社 埼玉ワンダー社

〒330-0063
埼玉県さいたま市浦和区高砂4-13-18
TEL:048-862-1455 FAX:048-862-1467

MESSAGE FROM SAISHIYOU

さいたま市私立幼稚園協会より

この度、さいたま市私立幼稚園協会におきまして発行されましたこの「読んで さいたま」。

この「読んで さいたま」はさいたま市内で子どもを育てられている保護者の方が、安心して子育てに専念できるような情報を、充実した幼児教育環境を持っている幼稚園・認定こども園から発信できないかというところから始まりました。

昨今では情報ツールの発展から、様々な子育てについての情報が氾濫しております。その情報のほとんどは、本来情報を必要としている子どもの姿を置き去りにされた、いわば机上の理想論を基に発信されているものがほとんどかもしれません。確かに、日々の子育てに悩まれるご両親にとっては、藁をもすがりたくなる思いからもっともらしく書かれている記事は

信頼のおける情報のように感じてしまうかもしれません。けれども、実際にその通りにしてみるとあまり思うような感じにならなかったというようなことを経験された方も多いのではないのでしょうか？

子どもを育てることは、日々の何気ない子どもの姿に喜び、時にはもどかしく思い悩む、そのすべてを通して親として子どもに育てられる事も大事かと思えます。そして何よりもその子どもの様々な姿を認め、無償の愛情を子どもが求める時にふんだんに注いであげることが大切ではないかと感じます。

さいたま市内の幼稚園は、協会全体で保育者の資質向上も含めて非常に高い意識を持っています。ぜひ、幼稚園で一回しかないお子さんの幼児期を共に育てあいながら子育てを楽しんでいただければと思います。

信用・信頼に日々挑戦「TRY」します!

Try 有限会社トライ

ご相談ください!

OA機器・AV機器・防犯カメラ・ビジネスホン・オフィス家具...
TEL.048-229-1361 FAX.048-229-1362

先生ファイト

株式会社 パステル社
〒354-0013 埼玉県富士見市水谷東2-2-1
TEL048-473-1188 FAX048-473-1192

園のICT化推進のご相談はぜひ当社まで

教育産業 さいたま

検索

<https://www.kyouikusangyou.co.jp>

OA機器・IT機器・ソフトウェアの総合商社
教育産業株式会社